



MONTHLY

かわせみ通信

9月号

2025年9月

Vol.193

発行所



ECOLOGY & SCIENCE 本社/三重県四日市市午起2丁目4番18号 (〒510-0023)

TEL.059-332-5122 (代) <https://www.tokai-techno.co.jp>

開かれた大麻市場の現在地～信頼を築くために必要なこと～

国内では大麻取締法の改正が段階的に施行され、医療ニーズと国際整合性を踏まえた制度への転換が進んでいる。他方、輸入されたCBD（カンナビジオール）製品から規制値を超える量のTHC（テトラヒドロカンナビノール）が検出され、捜査・立件に至る事例も報じられている。国内における産業の創生と法執行が同時進行する現在、問われているのは賛否ではなく、いかに信頼を確保するかである。

まず、一連の法律改正のうち初回の改正（2023年改正）では、「大麻草から製造された医薬品」を麻薬及び向精神薬取締法の免許制度の下で扱えるようにするとともに、THCを麻薬として明確に位置付け、施用罪の適用などにより規制の実効性を高めた。制度の重心は、従来のいわゆる「部位規制」（成熟した茎や種など）から「THC含有量規制」へとシフトし、管理・監督の座標軸が整理されたのである。

次に、近年耳にする機会が増えたCBD製品とは何か。CBDはTHCとは異なり、精神活性を主としない大麻草由来のカンナビノイドであり、オイル、カプセル、菓子・飲料、化粧品、ベイクなど幅広い形で流通している。一般にはCBD/CBN/CBGなどのカン

ナビノイドを含む製品を便宜上「CBD関連製品」と総称し、海外由来品が国内市場の多くを占めてきた。ただし、製造・流通のいずれかでTHCが混入・上振れすれば、たとえ「CBD製品」として販売されていても麻薬該当のリスクを負う——ここに市場の緊張がある。

この緊張に対する制度側の応答が、残留THCの上限設定である。2024年12月12日以降、日本では製品形状ごとにΔ9-THCの残留限度値が定められ、油脂・粉末、その他、水溶液の区分で極めて低い閾値が適用される。基準を超えた製品は、大麻由来か否かにかかわらず麻薬として取り扱いの対象となる。

では、栽培・製造・流通の各プレイヤーは何をもって信頼を積み上げるのか。それ



は「分析」と「記録」だろう。分析は単なる規制値に対する合否判定にとどめず、ズレの原因を掘り下げる評価・考察が重要だ。たとえば栽培期の環境ストレスや交雑による「ホット化（THCの上振れ）」を前提に、開花期のサンプリングと試験をルーチン化することで、栽培の安定化を図るといった検討が挙げられる。記録は、ロット連番、試験結果、入出庫・廃棄までの帳簿を一気通貫のデータで縦に通すことを指す。輸入であれば国産であれば、この縦串が引けていれば、規制値超過の疑いが生じても原因の切り分けと是正が速い。

さらに、事故やトラブルを前提とした設計も必要だ。盗難・紛失・規格外発生をゼロにできれば理想だが、万一発生した際に迅速に対応するためにも、ロット分割と隔離保管、是正処置の手順書、行政機関等への連絡、回収計画などを整えておきたい。これらはコストではなく、信頼を数値化し得る投資である。

結局のところ、大麻栽培の解禁は規制の緩みではない。不確かな部分を視える化する要請だ。数値で語り、記録で守り、公開で信頼を得る。私たちが今つくるのは作物だけではない。信頼の仕組みそのものである。

ココに技あり!

PFAS項目もコラムで解決！ 業務に役立つ知識を当社のコラムから

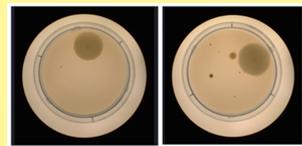
自社のウェブサイトを検索エンジンの検索結果で上位に表示させるために行う、様々な施策をSEO（検索エンジンの最適化）対策といいますが、弊社ではホームページに毎月コラムを掲載することをSEO対策の一つとして続けています。このコラムの原稿作成は弊社WEBチームが担当しており、テーマは主に弊社の商品である分析や法律に関するものとなっていますが、お客様が興味を持っていただけるように、経緯や具体的な内容を織り交ぜつつ作成しております。先日社内でも「PFAS30項目ってどの項目？」「コラムに書いてある」と言ったやりとりもありました。社内教育にも一役買っている当社のコラムをぜひ一度ご覧下さい。 <https://www.tokai-techno.co.jp/column/>



測ってみよう! 探検隊 Vol.90

「3秒ルール」、やっぱりセーフじゃない?!

「床に落ちた食べ物は3秒以内に拾えばセーフ!」という神話的な3秒ルールは本当? 実際に落としたものにどのくらい菌が付着するのか疑似実験してみました。その結果は右のとおりで、時間での比較による、菌数の差はわずかでした。実際床に付着している菌が思っていたよりも少なかったのか、残念ながら有意な差とは言えない結果となっています。しかしどれも時間が長いほうが菌数が増えていることをみると、食べ物が床に落ちた瞬間から菌は付着し始めることは言えるようです。実際には食品の水分や質感、床の材質によっても変わるとお思いますので、食べる、食べないはやはり自己判断ですね。



時間	試験①結果	試験②結果	試験③結果
3秒	2	2	2
10秒	4	3	6

(単位: 個/シャーレ)

スタンプ培地（一般細菌用）を直接床に置き、36℃で24時間培養

社員プチコラム

宮城 俊佑 (環境事業部 フィールドGr)

私はGENERATIONSというLDH所属のグループが好きでよくライブに行きます。昨年は、1~2回しかライブに行っていませんが、今年は少なくとも4回はライブに参戦しようと計画しています。ダンス&ボーカルグループなのでメンバーそれぞれに個性や特徴が様々な為、ライブの演出も年ごとに違い毎回ライブ後の余韻に浸る時間が私の幸せな時間の一つです。ちなみに私は6人のメンバーの中で三重県出身の小森隼が推しです。推しメンバーがプロデュースしているコーヒーショップが名古屋にあるのでぜひ行ってみてください。



編集後記

今回のメイン記事は、大麻関連法について、ニュースで取り上げられないような視点でお届けしました。コラムでは、日々の業務に直結する専門知識をわかりやすく発信しています。皆様に読んでいただけることが、継続してお届けする励みになりますので、ぜひ一度ご覧ください。(みっちー)

